

令和1年度
事業報告書

令和2年5月

目 次

1 課題解決に向けた取り組み	-----	P1
2 数値目標	-----	P5
3 利用実績	-----	P5
4 職員研修の参加状況	-----	P6

令和2年3月31日現在

1 課題解決に向けた取組

①サービスの質の向上

通所介護事業

課題	利用者一人一人のやりたいこと、目標に向けて援助できているか
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・現在も利用者へ何をしてみたいかなどのアンケートをおこなっているが、それだけにとどまらず、施設に対しての気持ちや要望、ご家族へもアンケート調査を実施することによってニーズの把握をしていくことで、利用者満足度を高めていく。 ・職員アンケートの実施をおこない、利用者へのかかわり方や、振り返りをおこなう機会をもつ。 ・昨年まで機能訓練をおこなっていたが職員体制が整わなくなり中止となっている。ご利用者、ご家族からの機能訓練実施について強い要望がある中、早期に体制を整え、再開することでニーズにこたえられるようにする。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対し「興味のある事」「これからやってみたい事」などについてアンケート調査を行い、個々人の希望が明確になった。調査内容から具体的に活動へつなげることは、まだできていない。今後は、職員と調査内容を共有し、ご本人と年単位で活動の計画予定を立てられるように呼び掛ける。来年度もアンケート調査は行っていく。 ・職員へのアンケートはできなかったが、認知症リーダー研修への参加職員による自施設実習を行う際に、令和1年7月～令和2年1月にかけて職員全体で利用者へのかかわり方について話し合う機会を数回もち、振り返りを行うことができた。それにより全職員が自らの援助について振り返り、「望ましい援助とは何か」を考え、「自分がして欲しい援助を心掛ける」という目標を立てて、意識的に利用者とかかわる事ができた。 ・看護師の採用により機能訓練の体制が整い、令和1年9月より機能訓練Ⅱと運動器機能向上訓練を再開した。ご利用者は、計画に沿って指導員と訓練を実施することで身体機能の維持向上が図れ、中には介護度が軽くなった方も数名おられる。今後も体制を整えながら、訓練の継続をしていきたい。

課題	職員の業務に対する姿勢、対応
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・研修などで他施設職員と情報交換をおこなうことで自分の施設のことが見えてくるため、振り返りの機会をつくりミーティングなどで報告をおこなう。 ・理想にむけての話し合いや、仕事の目標、目的が明確になるように、職員と定期的な面接をおこない現場にフィードバックできるようにする。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は主として、スキルアップの研修に参加した。この先勤務年数がたてば皆が受ける研修であることと、全員がそろそろ機会があまりないため、伝達研修は報告書にて行った。 ・業務に対する理想の姿勢について面談での聞き取りは未実施だが、業務について振り返るアンケート調査を職員に行った。基本知識、取り組み姿勢、利用者対応、業務知識、業務遂行、家族への対応、接客対応などの質問に「できている」「改善を要する」の2択で振り返る。自分に不足している箇所が分かり、業務に対する理想の姿勢に近づくための「業務目標」と自己実現や能力向上のための「自己啓発目標」を立てることで、理想とする介護者像やこれから目指したいものを個々人が具体的に理解できた。

居宅介護支援事業

課題	利用者、家族満足度が評価しづらい
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> 日々の介護支援専門員としての業務を見つめなおすためにも、ご利用者、ご家族へアンケート調査を実施し居宅介護支援に活かす。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援を担当している全利用者あてに文書を送付、アンケート調査を実施した。1. サービスをキャンセルした際の対応不良、提案の少なさへの不満。2. 相談しやすい雰囲気づくり。3. 施設入所に対しての説明および早期入所の希望がかなう様な働きかけ、の要望があった。 1について、サービスがなくても毎月自宅訪問することを基本に、必要に応じて電話連絡等を行うこととし、今後も継続していく。 2について、対人援助技術の向上が必要なのでスーパービジョン等の研修に積極的に参加することにした。今後も継続していく。 3について、施設の一覧表を作成し、施設の種類や介護度によって入れる場所かどうか目で見えてわかるものを作成し、家族への説明時にそれを利用し説明はしやすくなった。また、施設入所がすぐにできるものではないことをその都度説明し、家族も入所施設に足を運んでいただいて状況を伝えることが必要であることを伝えている。 今後も要望を取り入れることが必要と感じているので、無記名でのアンケートを実施する予定。

課題	面接時やケアマネジメントの過程の中で利用者、家族からいただく意見や自己の振り返りができていない
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて、毎月1回は事業所内で事例に対して意見交換や振り返り、検討をおこなう時間を確保する。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 11月より特定事業所加算を算定することになり、その中で毎週居宅会議を開くこととなり、11月以降は実施できた。しかし、ケース検討は担当者の受け取り方に影響を受けるため、意見交換や振り返りまでには至らない部分もあった。今後は外部の検討会へ事例を提出するなど、課内以外の検討方法を利用していきたい。

②利用者の安全保障

通所介護事業

課題	ひやりはつとがあっても報告がすぐに出ることが少ない
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ひやりはつとは自分だけではなく、職員間でお互いにひやりはつとであればそのことを伝え合い、報告書として挙げるようにし、きちんと評価できるようにする。また、書式も難しいものでなく、記入しやすいものを検討する。 事故を未然に防ぐためにシミュレーションや研修を定期的に行う。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ひやりはつと及び事故が起こってから2～3日以内で報告書を記入するように職員に伝え、書式も転倒事故以外は簡易にすることとし、遅くとも1週間以内には提出することができている。ヒヤリハット及び事故が起こった次の日には連絡シートやミーティングなどで伝え、注意を促すようにした。 リスクマネジメント委員会で年一回危険予測トレーニングを実施。今後もトレーニングを継続して行う予定。

③福祉ニーズに即したサービスの提供

通所介護事業

課題	年間を通して学生やボランティアや実習の受け入れが少ない状態
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> 学校や社協、現状のボランティアの方々への声掛けを通して、様々な催しやご利用者のニーズに対応できるようにしていく。 職員の子供さんの受け入れにより、ご利用者との触れ合いを通して施設を知っていただく機会としたり、福祉への関心を持っていただく機会となるようにする。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 定期ボランティアや社協主催のサマーボランティア、益田市主催の学生職場体験など今年度も多数のボランティアの受け入れを行った。活動満足度を上げるためにボランティアの存在は不可欠。また、定期ボランティアはご利用者の趣味活動や施設整備に大きく貢献してもらっており、継続して来てもらえるよう引き続きお願いしたい。今後もボランティアの募集を行い、他事業所の実施情報を収集しながら、ご利用者のニーズに対応できるよう活動していく。 休日や放課後に訪問してくれた子供たちとの触れ合いを通して、ご利用者の明るい笑い声がホール内に響き、和やかで楽しい雰囲気づくりができていた。

居宅介護支援事業所

課題	精神、知的障害を持っている方への居宅介護支援。家族支援が必要なケースへの支援
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> さらに専門性を高め、精神、知的なども含めた障害理解、家族への支援方法を習得する必要がある。そのため障害理解のための研修、地域で行われる勉強会への参加。事業所内でのケース検討を行う。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 精神、知的障害を持っている方への居宅介護支援、家族支援が必要なケースへの支援、障害理解のための研修に参加した。しかし回数が少なく障害理解や家族への支援方法を習得する機会にまではならなかった。ケース検討についてもお互いにスキルが未熟で支援方法を習得するに至らなかった。今後は松ヶ丘の水曜検討会を利用し、医師と相談する機会を持ちたい。

④人材確保

通所介護事業

課題	慢性的な人材不足
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ハローワーク、専門学校などの開く就職説明会などへ出席し七尾苑の魅力を伝え、人材確保につなげる。 高校や専門学校の実習、福祉体験、職場見学などの受け入れを積極的におこなう。 再雇用や定年制の見直しなど、働き続けられる職場となるよう規定や就業規則の見直しもおこなっていく。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 専門学校に直接出向くなどし、教員の方々と七尾苑の魅力や方針などを伝える機会をもった。 福祉高校の介護実習、市内中学校の職場体験、サマーボランティアなどの受け入れを行った。 今年度は各種規程の見直しまで取り組むことができなかった。次年度は社労士と共に規程の改訂に取り組む。

⑤人材育成

通所介護事業所

課題	採用者のうち無資格者や、介護現場の未経験者への育成
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修計画に基づき目標をたて、定期的な振り返りをする。 ・ 新規採用者が不安なく業務が行えるように育成マニュアルを作成し、それに基づいて指導がおこなえるようにする。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中途採用された職員に対しキャリアパスに基づき、各種研修への参加をし、振り返りを実施した。 ・ 中途採用された介護職員は介護現場の経験が全くなかったが、業務ごとに育成マニュアルを作成し、新人職員育成研修を受けた職員から指導を受けた。一対一の担当制だったため、他職員が気付きを伝えにくかったという点はあったが、育成マニュアルに沿った指導はもれなく伝える事ができた。業務終わりに振り返りを行うことで、疑問や不安な点などを減らし、達成目標も細かく相談できたので良かった。
課題	通所、居宅事業ともに専門性を高めていける人材づくり
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアパスに基づく研修を基本とし、その他研修、自己啓発研修などへの参加後には学んだことを職員間で共有できるようミーティングや苑内研修として実施する。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアパスに基づく研修への参加を計画に沿って実施した。またスキルアップのための研修を主として参加した。研修報告では全員がそろそろ機会があまりなかったため、報告書にて行っていた。

⑥業務改善

課題	長く働きやすい職場づくり
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方改革にともない年休取得率を現状64%を85%目標とし、積極的に年休取得ができるように職員へ周知する。 ・ ICTの積極的な導入と業務の見直しもおこない事務処理を効率化することで時間外勤務の削減をし、職員のワークライフバランスにつながるようにする。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年休取得率は54%であった。比較的取りやすい部署とそうでない部署があったことで目標値を大きく下回った。今後は計画的に年休が取得できるように働きかけをおこなっていく。 ・ 通所の記録システム構築により、居宅間でのデータのやり取りの手間や、月末処理などに時間がかかっていたものが大幅に軽減されたことで時間外も減少した。

⑦収支の安定化

課題	利用率の向上
実行計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通所介護事業においては、毎月居宅介護支援事業所への空き情報のお知らせ以外にも、ホームページへも空き情報の公開を行う。また居宅への毎月の報告時などでの情報交換、担当者会議時などで利用者獲得につながるようにアピールしていく。 ・ 個別機能訓練加算Ⅱが取得できるように専門職を早期に配置できるように働きかけをおこなっていく。 ・ 居宅介護支援事業については、介護支援専門員の採用をおこなうことでより積極的に利用件数を確保し、地域のなかでの頼られる事業所を目指す。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通所空き情報は各居宅に毎月末文書でお知らせし、ホームページでも情報を公開している。回数増回や新規利用受け入れは、担当者会議や電話連絡時に定期的にお願している。 ・ 令和1年9月より体制が整い、機能訓練Ⅱと運動器機能向上訓練を再開している。 ・ 5月よりケアマネを増員。11月より特定事業所加算を取得することができたが、2月末で1名退職したため、これも収支の安定化にはつながらなかった。

2 数値目標

事業	目標値	実績	
通所介護事業	85.0%	79.6%	計画時点では目標値を超えることは多いが、都合や体調不良でキャンセルとなる場合が多かった。空いた部分への振り替えや、新規の利用も入る事はあったが、目標値に届くまでにはならなかった。
居宅介護支援事業	75件/月	78件/月	5月よりケアマネ3人体制とし、新規利用者の獲得も行えたが、施設入所や死去などが続き、伸び悩んだ。
介護予防支援受託	8件/月	8.5件/月	

3 利用実績

(1)通所介護事業・総合事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日	26	27	25	27	23	25	27	26	24	24	25	26	305
延定員	910	945	875	945	805	875	945	910	840	840	875	910	10675
延実績	698	724	703	749	637	688	766	742	678	656	696	757	8494
要支援1	51	59	39	39	40	34	39	41	34	31	28	29	464
要支援2	42	39	40	47	39	41	48	49	45	56	56	61	563
要介護1	321	322	332	372	304	348	377	355	309	296	335	331	4002
要介護2	156	172	166	174	152	169	190	180	177	183	158	212	2089
要介護3	25	28	27	28	27	30	32	43	40	28	69	82	459
要介護4	73	80	79	65	51	48	60	54	55	40	29	20	654
要介護5	30	24	20	24	24	18	20	20	18	22	21	22	263
加算の算定状況	入浴介助加算			個別機能訓練加算Ⅰ			個別機能訓練加算Ⅱ			認知症加算			
	サービス提供体制加算Ⅰ			処遇改善加算Ⅰ			運動機能向上加算(総合)						
平均利用者数	27.1人												
平均要介護度	1.6												
平均利用率	79.6%												

(2)居宅介護支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	計
居宅計画	75	74	80	78	75	79	82	82	82	81	75	74	78.1	937
予防計画	9	10	9	9	7	8	9	10	8	7	8	8	8.5	102
新規入院中	0	5	5	3	3	6	5	3	0	1	1	0	2.7	32
入院中入所中	5	8	3	1	2	5	4	6	5	5	6	6	4.7	56
契約解除	5	3	3	4	7	7	4	3	7	8	12	11	6.2	74
認定調査	5	4	5	2	0	3	1	2	3	3	1	5	2.8	34
	5	5	9	3	5	8	6	4	7	6	2	4	5.3	64

介護支援専門員体制

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
員数	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
件数/員	37.5	24.6	26.6	26	25	26.3	27.3	27.3	27.6	27	25	37

(3) 生活支援ハウス

入居者の状況

月	月末在籍数	新規入所者数				退所者数					
		在宅から	病院から	施設から	計	在宅へ	長期入院	他施設へ	死亡	その他	計
4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	7	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
10	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
3	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	77	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1

4 職員研修の参加状況

派遣研修・講習等

研修名称	開催年月	参加者数
認定調査員研修	5月20日	1名
安全運転管理者講習	6月7日	1名
社会保険事務説明会	6月17日	1名
平成31年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程(チームリーダーコース)	6月19日	1名
認定調査員等研修会	6月26日	1名
地域貢献講習会	7月6日	1名
社会福祉法人指導監査説明会	7月9日	3名
デイ介護職員研修会	7月16日	1名
ますだ福祉医療ネットワーク(アルコール依存症)	7月17日	2名
主任介護支援専門員(スーパービジョン型事例検討会)	7月19日	1名
介護支援専門員等連絡会	7月23日	1名
認知症介護リーダー研修(前期)	7月24～26日	1名
労務管理研修	7月24日	3名
島根県高次脳機能障がい者支援研修	7月28日	2名
在宅医療・介護連携推進のための多職種研修会	7月29日	2名
認知症介護リーダー研修(中期)	7月31～8月2日	1名
キャリアパス生涯研修過程(中堅職員コース)	8月6日	1名
認知症介護リーダー研修(後期)	8月8日	1名
益田市ケアマネジメント支援研修(初任者研修)	8月21日	1名
福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程(初任者コース)	8月22日	1名
基幹型認知症疾患医療センター認知症研修会	8月25日	1名
認知症ケア研修会	9月2日	1名
施設ケアマネジメント部会研修(ソーシャルワークの視点を持ったケアマネジメントの実践)	9月6日	2名
高齢者・障害者雇用に関する助成金等説明会	9月11日	1名
圏域老協全体研修(笑う門にはいい介護～笑顔第一主義の仕組み)	9月13日	1名
福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程(管理職員コース)	9月18日	1名
ますだ福祉医療ネットワーク(高齢者の食支援)	9月18日	2名
認知症介護リーダー研修(実習課題設定)	9月27日	1名
介護食研修会	9月27日	1名
メンタルヘルス研修Ⅰ(一般職コース)	10月1日	2名
福祉公開講座(障がいを知る②、③)	10月3日	2名
認知症介護リーダー研修(他施設実習)	10月10日	1名
福祉公開講座(支える側からみる認知症、益田市の高齢者福祉の現状と取り組み)	10月10日	2名
精神障がい者地域移行・地域定着支援事業従事者研修会	10月10日	1名
主任介護支援専門員フォローアップ研修	10月13日	1名

老施協医療ケア研修会	10月17日	1名
福祉公開講座(成年後見制度でできる事、法定後見と任意後見)	10月17日	2名
訪看・ケアマネ合同研修会(益田で実践、意思決定支援～準備編)	10月19日	3名
認知症介護リーダー研修(実習課題設定)	10月23日	1名
福祉公開講座(支えるひとに気を付けて欲しいこと、どこまで知ってる?介護保険)	10月24日	2名
リスクマネジメント研修Ⅰ	10月25日	1名
パートタイム・有期雇用労働法等説明会	10月29日	1名
認知症介護実践者研修(前期)	10月30～31日	1名
メンタルヘルス研修Ⅱ(管理監督職コース)	11月1日	2名
スーパービジョン型事例検討会	11月2日	3名
認知症介護実践者研修(後期)	11月6～8日	1名
訪看・ケアマネ・看護協会合同研修会	11月9日	2名
源泉所得税の年末調整説明会及び消費税の軽減税率制度等説明会	11月14日	1名
認知症介護基礎研修	11月26日	1名
益田市ケアマネジメント支援研修(スーパービジョン型事例検討会)	11月27日	3名
社会福祉法人役員研修	12月6日	2名
社会福祉法人会計実務研修 上級コース	12月9日	2名
第二回益田圏域老施協研修会 三好春樹氏「人間学を根拠とした認知症ケア」	12月9日	1名
社会福祉法人監事研修	12月10日	1名
認知症介護実践者研修(中間評価)	12月12日	1名
島根県介護支援専門員協会研究大会	12月14日	2名
益田市ケアマネジメント支援研修(スーパービジョン型事例検討会)	1月17日	2名
社会福祉法人連絡会研修会	2月5日	1名
認知症介護実践者研修(まとめ)	2月6日	1名
アンガーマネジメント研修	2月13日	1名
キャリアパス導入研修Ⅰ	2月17日	1名
キャリアパス導入研修Ⅱ	2月18日	1名
益田市地域ケア個別会議 研修会	2月21日	2名
人権・権利擁護研修	2月21日	1名
デイサービス部会(機能訓練指導員)	2月25日	1名
認知症介護リーダー研修(実習報告会・修了式)	2月28日	1名